

# 山形県技術士会だより

**巻頭言** 山形県民の皆さんへ技術士の仕事をもっと知ってもらおう 山形県支部長(予定) 三森 和裕(建設部門)

## 山形県支部 新支部長 三森 和裕



5年間山形県支部長を務めてこられた安彦宏人氏のご勇退新支部長に三森 和裕氏  
新副支部長に須藤勇一氏  
就任予定、山形県支部は新体制でのぞむこととなります。

今年の2月～4月にかけて、日本技術士会山形県支部幹事選挙があり、立候補者数は定員20名に対し20名でしたので、信任投票になりました。4月16日の開票の結果、山形県支部の幹事は不信任票0で立候補者全員が信任されました。100%の信任です。これはすごいことで、本当に嬉しいことです。手前勝手に言えば、安彦支部長を中心とした県支部活動に対し、県内会員がこれまでの活動に「よくやった」と褒美をくれたものだと思います。安彦支部長他前役員の皆様方に敬意を表するものです。

今後その活動を引き継がせていただくわけですが、100点満点の実績を上回ることができるのかどうか、その重責に身も細る思いです。正式には6月の日本技術士会総会ののちに、支部長なども決定されますが、実質的には新幹事を中心として新しいスタートが始まっています。私も支部長として全力をあげて会の発展のために邁進しようと思います。

ただ、安彦前支部長も申ししていた通り、あまり急激にやる気をだすとみんな大変になるので、じっくりとゆっくりと総意を大事にして実行していきましょう。

これまでの活動を通じて、少し感じていることを記載させていただきます。

山形会は、昭和63年に設立され、山形県技術士協会、山形県技術士会を経て現在は公益社団法人 日本技術士会東北本部 山形県支部に移行して、平成29年には設立30周年を迎えます。私たちはこれまでの実績を継承しながら、課題解決の実現に向けていきたいと思っています。具体的には、内部課題の解決と外部への発信の両輪を動かすことが大事です。

①会員増と組織率の向上を目指して

日本技術士会の組織率は、日本の中の最高の技術者集団の集まりという割には、20%以下で低迷しています。制度が変わって公益法人化しても

その比率は変わっていません。公益法人化されてからは、規約、約款の整備に専念し、会員の行動を規制することが多く、新規会員情報も個人情報も理由に地域支部では把握できないことや、さらには経費も事務局を支えるだけの予算はありません。まさにサークル活動の域を出ていないと言えます。日本技術士会本会は肝心のことを置き去りにしているようにも見えます。大胆な改革を促す必要があります。

しかし山形会は頑張りました。山形会だけを見れば、県内技術士登録者130名近くになるようですが、山形支部には100名近くが加盟。約70%強の加盟率です。素晴らしいじゃないですか。これまで山形会は、山形県などと連携し、山形に依拠し地域課題の解決のために努力してきました。組織率の差は、組織がいかに地域に根差しているかということだと思います。山形会は日本技術士会員と技術士登録はしているが会員でない方々との共同をはかり県内行事や事業を行ってきました。これまで以上に会員技術士が増えるように心がけていきます。

②さまざまな研修の継続と実践

CPDと言われる継続研修制度は、技術士会は先駆的に取り入れてきました。めまぐるしく変わる社会状況や技術革新に対し、常に敏感に対応していかなければいけないと思います。技術士の方々は歳を重ねても前向きな探究心が旺盛です。各人の専門を生かしながら、社会に対し多様な提案を続けたいと思います。昨今流行の『地方創世』という言葉に踊らされるのではなく、これまでと同様に積極的にアクティブな提案と実践が山形県支部の格を向上させるものであると思うからです。

③産官学との連携の強化をはかって

今日、山形県内では特徴ある技術や産業、研究がたくさん注目されています。たとえば、山形大学の有機EL、重粒子治療研究や天童木工の木材加工、山辺町のニット、世界に羽ばたく

## 目次：

巻頭言 新支部長挨拶	1
前支部長 退任の挨拶	2
鈴木多賀氏が叙勲	3
新副支部長挨拶	4
技術教養講座の報告	4
平成26年度 山形県支部 年次大会の報告	5
現場見学会の報告	6
会員寄稿	7
お知らせ	8

## 山形県支部（技術士会）だより

(1 ページから続く)

醸造技術、加茂水族館のクラゲ飼育技術や観光的なアイデア等々日本のトップレベルのものがたくさんあります。技術士も、これらの産業や、研究者と連携し、多彩な技術立県の目標実現を支えていきましょう。

④豊かなやまがたを築くために

豊かな山形県を築きたい。ではその豊かさとは何でしょう。県民一人ひとりが幸せだと思える社会と考えられます。留意しなければならないのは、社会の誰に向かって発信し、誰を豊かにするのかを見失わないことです。沖縄の基地問題、福島原発問題、宮城、岩手などの震災復興支援問題など、それぞれの地域でト

レードオフとなる地域課題と技術課題が対立している場所も多くあります。私たちは、常に技術を持って、冷静にしかし、しっかりと現場に提案していくことが求められます。技術者としての自覚と誇り、さらには倫理を持って社会のために貢献していきましょう。

⑤プロフェッショナル集団としての社会貢献活動の実践

会のメリットについて、よく話題になります。技術士制度から見ても、業務独占事項も実現せずなかなかジレンマの中にあることは事実です。でも思い出してみてください。私たちが技術士試験に受かった時のあの感動。その感動を社会に還元しなくてはなりません。プロフェッ

ショナル集団として、技術を開放しましょう。一般の方々に向けたそれらの地道な活動の積み重ねこそが、技術士の認知度を上げ、技術士の社会的地位の向上につながると確信します。

これらの活動は、これまでも実行してきたもので特に目新しいものではありませんが、各人がさらに積極的に会に関わり具現化して活動指針を作成し、山形会として特徴ある活動を推進していきたいものです。みなさん、これまで以上に自覚と誇りと熱意を持って活動していきましょう。



## 退任挨拶

5年間を振り返って

前山形県支部長 安彦 宏人（応用理学部門）



はじめに

2010年(平成22年)7月本田康夫会長の退任により、山形県技術士会会長を1期2年勤め、その後、公益社団法人日本技術士会東北本部山形県支部支部長を2期3年勤め、このたび退くことになりました。5年間、役員並びに会員の皆さん、ありがとうございました。5年間を振り返ると、①山形県技術士会から公益社団法人日本技術士会東北本部山形県支部への移行と②地域産学官と技術士合同セミナーの開催が印象深く記憶していますので、これらについて述べます。

1.山形県支部への移行

2012年(平成24年)2月6日、東北本部長宛に「支部組織の設置についての発議」を提出しました。発議書には、山形県技術士会が山形県等の後援を得て「技術教養講座」を開催し、産学官の交流を図り、技術の啓蒙と技術支援活動を長い間実施してきたこと、「技術士受験研修会」を開催し、技術士受験啓発・普及活動を務めてきたこと、積極的なCPD活動により、会員の技術向上に努めてきたこと、年に1回の会報「山形県技術士会だより」を発行し、異業種間の技術力向上に努めてきたこと等を記載したものでした。平成24年2月6日、仙台市の(株)復建技術コンサルタント5F会議室開催された東北本部役員会で山形県、青森県、秋

田県、福島県からの県支部設置の発議書が承認されました(宮城県は既に発議書が提出されおり、既に承認済)。その後3月15日の理事会で、山形県技術士会等からの発議書が正式に承認されました。尚、2月6日の東北本部役員会で地域産学官と技術士合同セミナーを平成24年に山形県で実施することも正式決定しました。公益社団法人化に伴い、山形県支部の役員(幹事)選挙があり、20名が立候補し、4月20日、公益社団法人日本技術士会役員候補者選出選挙管理委員会の開票で20名全員が信任され、4月24日、東北本部役員会(本部長:吉川謙造)で私が山形県支部長に選出されました。6月8日山形県高度技術開発センターにて最初の県支部幹事会が開催され、副支部長、総務・技術・企画広報の各委員長、事務局長、会計幹事を決定し、山形県支部がスタートしました。

2.地域産学官と技術士合同セミナー

2011年(平成23年)12月16日、東北本部役員会の席上、吉川謙造本部長より、2012年の地域産学官と技術士合同セミナー(以下セミナーと略する)を山形県で実施できないかとの打診があり、2012年(平成24年)1月20日山形県技術士会役員会でセミナーを2012年10月頃に実施することに決定しました。これにより、支部設立の準備とセミナー開催準備を同時並行して進めることとなりました。その後、何度かの役員会(理事会→幹事会)で基調講演者・テーマ・産学官からの講演者等を議論しました。

基調講演者には、吉村美栄子山形県知事と結城章夫山形大学長が候補者となりました。その後、県議会との日程その

他により、結城山形大学長に絞り、学長から承諾の返事を頂きました。結城学長は山形大学長に就任する前には、文科省次官であり、その前は科学技術庁で技術士法改正も担当されたこともあって、日本技術会を身近な存在に思っているようでした。

テーマは東日本大震災(2011.3.11)の後とあり、「東北創生」となりました。因みに、2011.11(広島)のテーマは「再生可能エネルギーで活力ある低炭素社会」、2012.1(大阪)のテーマ「わが国の中期的エネルギー戦略」でした。産学官からの講師は、山家公雄氏(エネルギー戦略研究所)、下平裕之氏(山形大学人文学部)、村上龍雄氏(加茂水族館)、松田企一氏(日東ベスト・技術士)、吉田郁夫氏(山形県庄内総合支庁・技術士)の5人となりました。

2012年(平成24年)10月5日の大会は河合県支部技術副委員長の司会により、内村会長と吉川東北本部長の挨拶に始まり、市川山形市長の来賓の挨拶の後、結城山形大学長の基調講演、5名の講演と、順調に大会が進められました。交流会では、吉村美栄子山形県知事の挨拶もあり、盛況のうちに閉会しました。

むすび

平成19年7月6日、山形県技術士会20周年記念式典が開催されました。この20周年記念式典では、会員に記念品(名刺入れ)が渡され、創立20周年記念誌「技術を見つめて」が発行されました。2年後の平成29年は30年記念祭の年となります。新しい役員のもと、30年記念祭が開催されることを希望し、退任の挨拶とします。5年間ありがとうございました。

## 特別寄稿 ～叙勲の榮譽を受けられた鈴木多賀氏へのインタビュー～ 山形県支部企画広報委員会

### 鈴木多賀氏と対談

(平成27年1月27日 鈴木氏ご自宅にて)

平成26年8月1日内閣府発令の高齢者叙勲におきまして、当会前副会長の鈴木多賀氏が瑞宝双光章の榮譽を受けられました。鈴木氏の叙勲におかれましては、山形県支部としましても大変名譽なことであり、また山形県技術士協会初期のころから副会長や役員として長年貢献されてきた鈴木氏の近況を皆様にお知らせしたいと思ひから、去る1月27日に鈴木氏のご自宅を訪問し、お話をうかがって参りました。

Q1：叙勲の知らせを聞いた時の感想は？

A1：最初、頭が真っ白になった勲記・勲章を頂くということは、今まで受けた表彰とは、責任感が全く違う。日が経つにつれ実感が湧いてきているが、嬉しさと同時にまた身が引き締まる思ひである。

Q2：鈴木氏の功績の一つとして

「さわのはな倶楽部」での活動があるが、それについては？

A2：「さわのはな倶楽部」は来年で発足20年になる。実際に農家の方々と一緒に活動・研究してきたことが今回の叙勲理由の大きな一つになったのではないかと考える。自分は資料提供や調査・研究のとりまとめが主な役割だったが、現地に足を運ぶたびに各農家が稲作や農業について真剣に向き合っている姿が大変勉強になった。農家は将来の農業について本当に真剣に考えている。

Q3：将来の農業のあり方についてどう思うか？

A3：自分は、そんな大それたことは言えないと思っている。しかしながら自分が思うに専業農家として生き残るには、2世代3世代が同居した豊かな家族構成の農家同士が一致団結し、栽培から流通・販賣まで一貫したルートを開拓している、いわば産業として魅力がある農業経営しか生き残れないと思う。

Q4：まだまだお元気でいらっしゃるが健康法は何か？

A4：自分も88才、急激な体力の衰えを感じる今日この頃である。自分の世代は戦争時代の栄養不足時に幼少時代を過ごしており、今は同じ年代の人は皆が骨粗しょう症である。普段からビタミンDやカルシウムの摂取を常に心がけ、温かくなったらまた近所を歩くことを実践していきたい。

最後に

鈴木さんのご自宅をお伺いした時、仲の良い素敵な奥様と二人して笑顔で出迎えていただきました。また玄関の正面に目を向けると、親しい友人から頂いたという叙勲祝いの胡蝶蘭が綺麗に咲いておりました。ご高齢になったとはいえ、鈴木さんにも胡蝶蘭のように、もう一花も二花も咲かせていただき、益々これからもご活躍して頂きたいと願ひながら、ご自宅を後にしました。



鈴木氏が叙勲を受けた勲記および勲章



鈴木多賀氏  
(ご自宅にて撮影)



## 抱負

山形県副支部長（予定） 須藤 勇一（上下水道・建設・総合技術監理部門）



このたび、去る4月24日に開催された役員会において、副支部長を仰せつかり（予定）しました。微力ですが支部長を補佐し、山形県支部の発展のため精進してまいりたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

今から58年前の1957年5月20日に、科学技術の向上と国民経済の発展に資することを目的として「技術士法」が制定されました。その翌年に第1回の試験が行われ、これまでに約10万人の「技術士」が誕生し、わが国の戦後復興、高度経済成長、

科学技術立国に貢献してまいりました。

現在わが国は、環境・エネルギー問題、少子高齢化社会、財政赤字と社会保障、経済・地域格差、多発する自然災害、老朽化するインフラ、国際社会問題等さまざまな課題が山積しております。これらは、複雑に絡み合い、それぞれがトレードオフの関係にあります。これらの課題を解決するためには、全体を俯瞰し、経済性管理・人的資源管理・情報管理・安全管理・社会環境管理等の多角的視点から全体最適化を図ることが重要であると思っております。

「技術士」は、産業経済、社会生活

の科学技術に関するほぼ全ての分野(21部門)を網羅し、科学技術に関する高度な知識と応用能力が認められた技術者であります。現代社会が直面している多種多様な課題を解決に導くためには、「技術士」の高度で専門的な応用能力と総合的な課題解決能力が求められているのではないかと考えられます。また、それが「技術士」の社会的地位の向上に繋がるものと考えられます。

支部の活動を通して、地域社会の発展に少しでも寄与し「地域創生」「東北創生」「日本創生」と繋がっていくことができれば幸いに思います。

## 平成26年度 技術教養講座の報告

上村 裕司（建設部門 / 企画広報委員会）

恒例の公益社団法人日本技術士会東北本部山形県支部主催「平成26年度技術教養講座」が平成26年1月7日（金）13時30分より山形県高度技術研究開発センター多目的ホールにて開催されました。今回の講座は微生物と環境問題をテーマに、独立行政法人土木研究所が取り組む「下水道施設における病原微生物の対策と課題」についてと、山形大学上木名誉教授による「無酸素環境に広がる嫌気性微生物の世界」を演題に講演を頂いた。当日の聴講参加者は73名でした。当日の講演内容を以下に報告します。

講演 1. 下水道における病原微生物の対策と課題

講師 独立行政法人土木研究所主任研究員 諏訪 守 氏

下水道は、都市活動によって排出された汚水を収集、浄化、放流することで公共用水域の水質向上に寄与している。汚水には、人から排出される糞便が含まれることから、大腸菌を含む様々な病原微生物が存在する。下水処理場では、病原微生物の除去、消毒が行われるため公共用水域の環境保全が保たれているが、もし処理

が行われずにそのまま河川等へ排出されることになれば、各種病原微生物に起因する感染症が蔓延することになり大きな社会問題になることは言うまでもない。しかし、昨今の異常気象、ゲリラ豪雨等で都市災害が多発する傾向にあり、大雨による下水マンホールからの汚染水の溢水や、河川への直接排出なども予測されることから災害時の浄化技術も求められる。土木研究所では、測定方法の開発を通じた公共用水域への各種汚染源の実態解明や、対策手法の構築を目指し調査研究を展開している。



諏訪 守 講師 講演風景

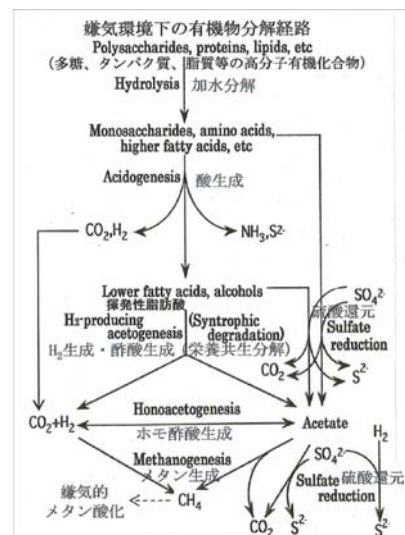
講演 2. 無酸素環境に広がる嫌気性微生物の世界

講師 山形大学名誉教授

客員教授 上木 勝司 氏

微生物には好気性、通性嫌気性、偏性嫌気性の各生物が存在する。無酸素環境下に生存していた生物が有酸素生物に押し出されて海洋堆積層中には甚大な生物が生存している。

嫌気環境下の有機物の分解経路は以下のような分解経路を辿る。



上木 勝司 講師 講演風景

## 平成26年度 山形県支部年次大会報告

土屋 勲（建設部門 / 企画広報委員会）

平成26年7月4日に平成26年度 山形県支部年次大会を開催しました。また、併せて技術研修会も開催されましたのでその報告を致します。

### 1. 平成26年度 山形県支部年次大会報告

本年次大会は、昨年より山形県支部として本格的に活動を実施しておりその事業報告、決算報告がされました。また、26年度事業計画、予算案の審議がされ、いずれも原案どおり可決承認されております。

年次大会での来賓として、山形県商工労働観光部工業振興課科学技術政策主幹代理 石澤様、公益社団法人日本技術士会東北本部 本部長吉川様よりご祝辞をいただきました。ご祝辞の中で石澤様から、「公共投資は回復基調にあり、平成4年度以来の高水準となっている。この状況を持続させる意味でも山形県の強みを活かした取り組みを今後進めていきたい。そのためにも、技術士皆様の豊富な知恵と経験を活かし、山形県の産業、科学技術発展のためにその技術力を発揮していただきたい。」とお言葉をいただきました。また、吉川本部長からは、復興における現状についての話がありました。その中で「技術者不

足が復興を進める上で重要な課題となっている。東北にいる技術士として強いリーダーシップを図り、今後とも東北の復興と東北の技術者の育成に尽力してほしい」とのお言葉をいただきました。



＜来賓祝辞 吉川本部長＞

年次大会報告に際し出席者から「本年度予算計画として、昨年度より大きく予算が削減されている。この状況でこれまでと同様、充実した支部運営が図れるのか。」との質問がだされました。これの質問に対し、支部からは、「今後の研修会等では資料代等として参加者より徴集させていただくことになると思うが、これまで同様の運営が可能である。」との回答がありました。

### 2. 研修会報告

年次大会に引き続き田村講師による下記の講演が行われました。  
演題 『気候変動に立ち向かうため

に』東北本部SGEEの会田村泰弘氏

講演の内容は、下記の2部構成で実施されました。

1. IPCC第5次評価報告書の警告
2. 少しずつ生き方を変え、社会を変えて

- (1) ものづくりと暮らし方の視点から
- (2) 科学技術倫理の視点から
- (3) テクノロジーの視点から

最初に京都議定書の達成内容の詳細について説明がありました。京都議定書の達成割合の中で多くを京都メカニズムクレジットで補っていることに、少々疑問が残る。(私だけだろうか?)

次に、今年3月に報告されたIPCC第5次評価報告書について、要点を分かりやすく説明していただいた。その後、第5次評価報告を踏まえ、これから科学技術者としてどのように地球環境、生活環境と向き合うべきなのか具体的な事例を基に説明がありました。

この度の田村氏の講演は、我々人類、技術者にとって永遠の課題「自然との共存」であり、講演を聴きながら、今をふと立ち止まり、考え、感じさせられる講演であったように思います。

科学技術が守るべきもの、守らなければならないものとは何か。もう一度、小さなことから深く考える必要があるのかもしれない。



＜田村講師：講演風景＞





## 平成26年度現場見学会の報告

豊島 良一（建設部門 / 企画広報委員会）

今年の年次大会研修会は地球環境とエネルギー問題がテーマであったことが記憶に新しいところですが、今回の現場見学会もそれと関連し、東北最古の水力発電所と、最新式LNG火力発電所の建設現場の二か所を見学することが出来ました。特に新仙台火力発電所の建設現場は、震災関連を除いては東北最大級規模のプロジェクトであるということで、建設中の巨大な構造物を目の前にし、ただただ圧倒されてしまいました。以下に見学会の内容を報告いたします。

日時：平成26年8月1日（金）

場所：宮城県仙台市 山居沢水力発電所・新仙台火力発電所建設現場  
参加者：27名

### 1. 山形から一路仙台へ

今回の現場見学会も、大型バスをチャーターしていただき、バス一台で仙台までの移動となりました。午前9時に山形市の土地連駐車場に参加者の皆さんが集合し、一路高速道路にて仙台に向かいます。社内では、ビデオ研修ということで湯澤技術委員長から「大科学実験」というDVDを用意していただき、それを見ながらの移動となりました。このDVDは、難しい科学の世界を非常に分かり易く日常にあてはめた内容で、聴講された皆さんには非常に好評でした。

### 2. 歴史たつむ三居沢水力発電所・三居沢電気百年館

三居沢発電所は、仙台市広瀬川にある東北最古の水力発電所で、電気百年間という博物館が併設されています。国道48号よりちょっとだけ入った所に発電所があるのですが、参加されたほとんどの皆さんが初めて足を踏み入れた場所だった様

です。最初に三居沢電気百年館の薄井さんから、三居沢水力発電所の概要と歴史について説明を受けました。三居沢水力発電所は明治21年に、宮城紡績会社工場内の水力を利用して発電した東北最古の発電所であり、明治43年に現三居沢発電所の位置に場所を移し、現在に至るまで104年間の長きにわたり間運転を続けている水力発電所です。発電量としましては最大出力1000kWで一般住宅300軒分の発電能力を有しており、現在は東北電力内のコントロールセンターで遠隔監視・制御されているとのことでした。また、一階の展示室から二階ギャラリーに上がる途中、日本国内に3つしか存在しない古代から現代に至る電気の歴史を描いた「電気の精」という、大きなリトグラフが展示されており、大変綺麗な色彩に目を奪われました。二階ギャラリーにて教材のビデオを聴講し、最後に薄井さんから東北電力の需給量や、震災を経験し今日に至るまでの電力事業者として使命などのお話をいただいて、電気百年間を後にしました。

### 3. 昼食はもちろんノーアルコール

途中、キリンビール仙台工場レストランにて昼食をとりました。以前のような少人数の時の現場見学会ならお店の融通もききますが、さすがに27名となると昼食場所を探すだけでも大変なようです。実行委員の方々のおかげでスムーズに昼食をとることが出来、バスが来るまでの残った時間は、各々お土産を買ったり、館内のソファでゆったり休息をとり、午後に備えました。

### 4. 壮大な新仙台火力発電所建設現場

新仙台火力発電所建設工事は、昭和46年から運転開始した仙台火力1号機と2号機（重油火力95万kW）を経年廃止し、新たにLNG（液化天然ガス）を燃料とする高効率の最新鋭ガスコンバインドサイクル発電所3号系列（3-1、3-2、合計98万kW）を建設するものです。最初に新仙台火力発電所建設所の山上副所長・斎藤土木建築課長より、建設工事の説明を受けました。その後2班に分かれ、LNG輸送船が停泊する棧橋工事、LNG貯蔵タンク、気化設備、本館建物、排熱回収ボイラ（HRSG）等を、建設所の方々から引率していただきながら、場内を見学することが出来ました。棧橋基礎工事やLNG貯蔵タンク工事には最新工法を適用し、コストの低減を図っているとのことでした。広大な建設現場なため、本館建物などはバスからの見学となりました。最後に建設現場を一望できる既設ビル7階の踊り場に案内していただき、建設工事全体を見渡した時には、感動の一言でした。ただし、この踊り場はグレーチングで下60mの地面が丸見えなため、身の縮む思いでした。東京スカイツーよりはずっと低い場所なのですが、観光地の完全に外壁で囲われた安全な展望台と、現場の展望台とでは、高所に対する恐怖心も違うものだと感じました。

-以上-



## 総監用語で綴る初心者登山のHow to 高樫 はやと (建設・総合技術監理部門 / 企画広報委員会)

### 1. はじめに

この度、山形県支部の企画広報委員会に入会しました。県支部会員の皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

私は、総合技術監理部門(以下、総監)に登録をしてから4年になりますが、総監技術は未完成な分野も多く、いかに実務の中で形作っていくか、手探りと奮闘の日々を過ごしています。そこで実務からは少し離れて、最近、中高年でブームとなっている登山について、総監用語で綴ってみたいと思います。

### 2. 登山は総監の宝庫?

技術士試験での運動不足や職場からの眺望も相まって、4年前に山登りを始めました。現在、登山とは言っても、夏山の日帰りハイキング程度で、最近流行のトレッキングと言った方がよいかもかもしれません。まだまだ初心者の域であるため、登山のHow to本が手放せません。

そんなある日、登山の本を読みながら、「総監視点で整理するとじっくりくるぞ!」と考えました。登山技術の歴史は総監技術よりもはるかに古いわけですが、私にとっては逆だったのです。

### 3. リスク管理

リスクアセスメントをするまでもなく、登山最大のリスク(発生確率×被害規模)は「遭難」です。

リスク対策として、保有・低減・回避・移転とあるわけですが、まずはリスク回避—悪天候予報時や噴火の恐れのあるような時は登山に行きません。次にリスク低減—遭難の発生確率と被害規模を減らすために総監5つの管理を駆使します。そして、若干のケガや人に迷惑を掛けない程度のリスクは保有します。なお、万が一遭難した時には多額の捜索費用を要するので、リスクの移転として保険に加入しま

す。

### 4. 危機管理

遭難してしまったらどうするのか。その前に、登山計画書の作成が必須です。登山計画書の提出により、遭難時の救出率が高まります。登山計画書の作成過程で、遭難につながる要因となる、道迷いやケガなどの予防も計画することができます。

また、遭難した時のためにビバーク(緊急野営)の準備も大事になります。私は未熟ですが、地図コンパスと目視による地形判読、ケガの応急処置、ロープ技術なども緊急時の備えになります。緊急対応のマニュアルや登山計画書が危機管理マニュアルというわけです。

### 5. 経済性管理

快適な登山を楽しむための道具、緊急時の備え、水・行動食・非常食など、忘れ物は命取りにもつながります。チェックシートで事前の確認が重要です。

登山には行程計画(工程計画)が必須で、早出早着が基本です。通過地点毎の予定時間を計画します。計画通りならば最早開始時刻となりますが、道迷いやケガも考慮した最遅完了時刻(日没前)での計画も必要です。

### 6. 人的資源管理

私は専ら単独行なのですが、グループ登山の場合は、リーダー・サブリーダーの資質でメンバーのモチベーションが左右されるようです。また、メンバーの力量に合わせて並び順を決めると、安心・安全な登山となるようです。

### 7. 情報管理

昨今、インターネットが普及し、天気予報はもとより、登山についての情報も溢れています。ただし、情報の取捨選択は自己の責任で行います。情報の信頼性は公的機関のものが高くなります。

また、携帯電話の活用、GPS機能付の登山用ナビの利用なども緊急時には活躍しますが、自然にひたすることも登山の楽しみです。電子機器に頼り過ぎないことも必要です。(電池切れ、機械誤差の考慮も必要)

### 8. 安全管理

前述のリスク管理や危機管理という項目が既に安全管理の視点になっています。

また、自然の中に飛び込むわけですから、熊との遭遇、スズメバチの襲撃なども予防できるように、事前の準備と山行中の危険予知も必要です。(県HPに予防方法記載あり)

山行中のケガは労災や他人の責任とはならず、自己責任です。

### 9. 社会環境管理

山に行くと高山植物が目を惹きます。月山では「とるのは写真だけ」「採ってはダメ」という看板も見かけます。自然環境を保護することは当たり前ですが、踏み荒らしによる植生域の減少、ストックなどによる登山道の荒廃などにも気を使う必要があります。登山道の整備や環境保護活動をしていただいている方々に感謝の気持ちで登ります。

### 10. おわりに

私の登山をPDCAサイクルに例えるならば、山登りの最中(D)は無心で楽しみ、総監視点はあくまで計画(P)と下山後(C・A)にしています。いつまで続くかわからぬ趣味ですが、実務も日常も総監マインドは持ち続けていきたいと思っています。

最後に、昨年、県支部総会の懇親会に初めて参加をさせて頂きました。技術士としてのモチベーションアップの場となりました。これからは、委員会活動等も含め、県支部活動に少しでも多く参加できるようにしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

—以上—



公益社団法人日本技術士会東北本部  
山形県支部

## 豊かな地域社会の創造に技術士の活用を

山形市松波四丁目12-3  
(株)田村測量設計事務所内

電話 023 (642) 6644  
Fax 023 (642) 6654

### 山形県支部（山形県技術士会）の趣旨

山形県支部は、会員の品位と資質を向上し、高度化、総合化等が進展する近時の科学技術に関する業務を行う者として、名実ともに社会的地位を保つよう、会員相互の連絡・協力・研修等を通して、技術者の指導・育成、技術士業務の普及・啓発を行うことを目的としています。

#### たより発行が遅れましてお詫びいたします

会員の皆様には日頃より山形県支部および企画広報委員会の運営にご協力いただき感謝申し上げます。

当初、本号は平成26年度内に発行予定でしたが、本部並びに支部の役員改選が4月中旬に予定されていたため、選挙結果と新役員の決定(予定)を待っての発行となりました。発行が遅れましたことに対しまして、お詫び申し上げます。

### 日本技術士会東北本部山形県支部（山形県技術士会）の事業活動

- (1) ホームページ等による会員及び一般の方々への情報案内、技術士受験研修会・講演会などの開催、技術士制度並びに技術士資格の活用・普及・啓発・その他の事業を行っています。
- (2) 技術士の社会的地位向上のための活動及び各種情報の提供を行っています。
- (3) 現地見学会や会員研修等を通して、会員相互の技術の向上、啓発、研修に関する事業を行っています。
- (4) 会員、公益社団法人日本技術士会並びに同会東北本部との連絡と協力に関する事業を行っています。
- (5) 各種講習会、セミナー等への講師派遣及び各種分野の技術指導に関する事業を行っています。

### お知らせ ～平成27・28年度 役員・専門部会のご紹介～

平成27年4月16日の支部幹事選挙結果および平成27年4月24日の山形県支部役員会の結果、支部役員・専門部会は下記の通り決定(予定)いたしましたので、ご報告いたします。

#### ☆ 役員（山形県支部幹事）

役職	氏名	部門	地域
支部長	三森和裕	建設	村山
副支部長	須藤勇一	上下水道他	置賜
役員	有地裕之	上下水道	庄内
	石井知征	建設他	村山
	梅津齊	農業	置賜
	大岩敏男	環境	村山
	太田恵一	環境	庄内
	小山田孝一	建設	村山
	上村裕司	建設	西村山
	河合直樹	環境	村山
	河内功	農業	村山
	菅勝美	建設他	最上
小島一二三	建設	最上	
坂井順一	建設	北村山	
角田五郎	農業	村山	
田村茂	上下水道	村山	

土屋勲	建設
豊島良一	建設
丸山修	農業
湯澤洋一郎	建設他
田村茂	上下水道
湯澤洋一郎	建設他

#### ☆ 総務委員会

委員長	湯澤洋一郎	建設他
副委員長	丸山修	農業
委員	小島一二三	建設
	坂井順一	建設
	寒河江敬	建設
	近藤元裕	建設

#### ☆ 企画広報委員会

委員長	豊島良一	建設
副委員長	上村裕司	建設
委員	土屋勲	建設
	穴戸道明	機械
	中臺直之	建設他
	富樫はやと	建設他

置賜	☆ 技術委員会		
北村山	委員長 有地裕之	上下水道	庄内
置賜	副委員長 大岩敏男	環境	村山
置賜	河内功	農業	村山
村山	委員 河合直樹	環境	村山
置賜	菅勝美	建設他	最上
	玉津卓生	建設他	庄内
	田村整	建設	村山
	伊藤信生	建設	庄内

#### ☆ 事務局

事務局長	小山田孝一	建設	村山
事務次長	角田五郎	農業	村山
事務局員	田村茂	上下水道	村山

#### ☆ 東北本部

幹事	三森和裕	建設	村山
	小山田孝一	建設	村山
政策事業委員			
	須藤勇一	上下水道他	置賜

